

第534回生存圏シンポジウム

2024年 京都大学森林科学公開講座 生存圏フォーラム特別講演会

11月9日(土) 13時30分～

「森と木の生物学」

【場所】 京都大学宇治キャンパス 木質ホール (zoomのハイブリッド開催)

【開会あいさつ】

13:30～13:35 今井友也 (京都大学生存圏研究所教授)

参加費無料

【生存圏フォーラム会長挨拶】

13:35～13:40 片山健至 (香川大学名誉教授)

【講演】

13:40～14:05 「木の生存競争と森の成り立ち」
小野田雄介 (京都大学大学院農学研究科教授)

14:05～14:30 「森と木の生物学を愉しむ、生物学が苦手な研究者のはなし」
高橋けんし (京都大学生存圏研究所教授)

14:40～15:05 「熱も圧も薬品も使わない高分子構造制御ーセルロース生合成の秘密」
今井友也 (京都大学生存圏研究所教授)

15:05～15:30 「木」の誕生と進化をめぐる細胞壁の研究
飛松裕基 (京都大学生存圏研究所教授)

【閉会の辞】 15:30

【見学会】

15:40～16:30
材鑑調査室およびシロアリ飼育施設見学

【申し込み方法】

QRコードあるいはリンクより
お申込みください。～11/1まで。
定員に達し次第締め切ります。



<https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/events/symposium-0534/>



【お問い合わせ】 shinrin.kyoto.2024@gmail.com (京都大学生存圏研究所 今井友也)

【主催】 京都大学生存圏研究所／京都大学大学院農学研究科森林科学専攻

13:40-14:05

「木の生存競争と森の成り立ち」

小野田雄介（京都大学大学院農学研究科教授）

森には大きな木がいっぱい生えています。どうして木は大きくなるのでしょうか？一見、平和そうに見える森にも、実は、光などの資源をめぐる熾烈な競争があります。木の生存競争から、森の成り立ちを考えます。



14:05-14:30

「森と木の生物学を愉しむ、生物学が苦手な研究者のはなし」

高橋けんし（京都大学生存圏研究所教授）

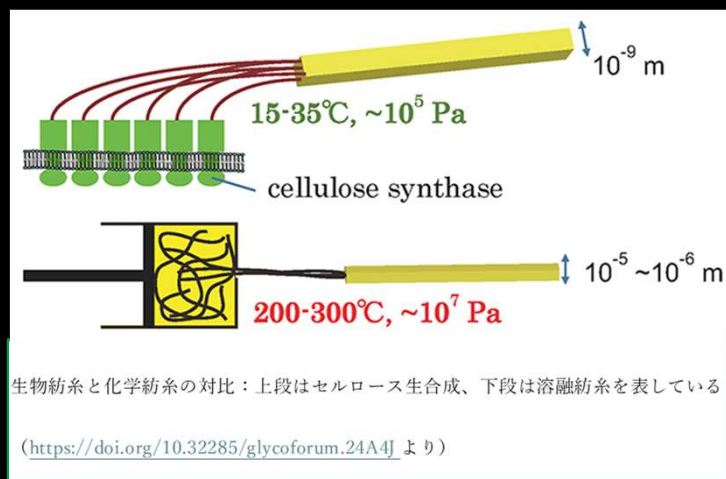
最近、高校で生物学を捨てたことを少しばかり後悔しています。物理化学や大気環境学をバックグラウンドとする私が、大気微量成分を計測する高感度センサーを森へ運び泥だらけになりながら木の息づかいを探っていたところ、新しい発見や異分野の人たちとの出会いが訪れました。

14:40-15:05

「熱も圧も薬品も使わない高分子構造制御ーセルロース合成の秘密」

今井友也（京都大学生存圏研究所教授）

木材をはじめとする生物素材は、常温常圧水系溶媒で合成された材料に他なりません。高温高压有機溶媒が使われるプラスチック材料の成形とは対照的です。本講演ではセルロース合成をグリーンな高分子構造制御としてとらえ、その仕組みについてお話しします。



15:05-15:30

「木」の誕生と進化をめぐる細胞壁の研究

飛松裕基（京都大学生存圏研究所教授）

巨大な樹木を支える幹（木材）は、分厚く硬い細胞壁でできています。この細胞壁の進化が、植物の陸上進出とその後の繁栄の原動力の一つとなりました。植物は、どのように細胞壁を進化させてきたのか、その仕組みを、持続可能社会に貢献する技術に応用できないか、最新の研究の一端を紹介します。